

# y/d 猫の甲状腺機能亢進症

- 3週間 (y/dのみの単独給与) で甲状腺の健康に役立つことが科学的に証明された栄養です。
- 甲状腺の健康のため、ヨウ素を非常に低く制限しています。
- 高レベルのオメガ-3脂肪酸とオメガ-6脂肪酸で、皮膚・被毛の健康を維持します。
- 腎臓の健康のため、リンを制限し、低ナトリウムに調整しています。
- 甲状腺の健康を通じて、全身の健康に役立ちます。

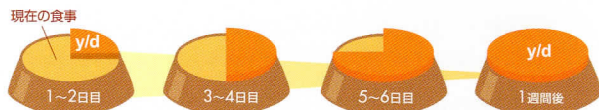
## <猫用> y/d による食事管理の方法

### 食事の切替え方

#### ■ 新たに y/d で食事管理を始める場合

今までの食事に y/d を混ぜ、徐々に増量しながら切り替えてください。

1週間程度かけて徐々に切り替えましょう。



#### ■ 現在お薬 (抗甲状腺薬) を使っている場合

**開始から1週間** 上記の方法で通常の食事から y/d へ切り替えます。同時に抗甲状腺薬は半分程度に減量します。\*

**切替えから1~2週間** y/d だけの食事に切り替わってから1~2週間後に抗甲状腺薬を中止します。



### その後の定期的な検診を

食事を y/d に完全に切り替えてから4週間、8週間後、以後6カ月ごとに検診を受けましょう。

#### 腎臓病を抱えている場合

腎臓病も抱えている場合は、2週間、4週間、8週間後、それ以降は3~4カ月ごとに検診を受けましょう

ヨウ素を他の食物 (おやつや他のペットフードなど) から摂取すると低ヨウ素食の製品特性を損ないます。獣医師の指導に従って y/d だけの食事を与えることが大切です。

\*詳しくはかかりつけの獣医師にご相談ください。



ヒルズのプリスクリプション・ダイエット  
猫の甲状腺機能亢進症管理用フード

# y/d

※ 獣医師の指導にしたがって与えてください。

# y/d

## 猫の甲状腺機能亢進症

<猫用> ドライ 1.8kg  
缶詰 156g



### 健康な同居猫がいる場合

健康な猫に <猫用> y/d を毎日の食事として与える場合には、他の猫用ドライ、ウェット製品またはトリーツ製品などを小さじ一杯分加えることで、ヨウ素を補うことができます。

### 腎臓病を持つ猫の場合

<猫用> y/d は高齢猫に配慮してリンなどを制限していますが、腎臓病の徴候が見られた場合には、ヒルズのプリスクリプション・ダイエット <猫用> k/d への切替えが必要になることがあります。詳しくはかかりつけの獣医師にご相談ください。

病院名

ヒルズは、米国産ドライ製品の酸化防止に自然派成分を使用しています。



輸入者  
日本ヒルズ・コルゲート株式会社  
〒135-0016 東京都江東区東陽3-7-13



独占の販売元  
DSファーマアニマルヘルス株式会社  
〒553-0001 大阪府福島区海老江1-5-51

愛犬愛猫に関する情報 ヒルズホームページ <http://www.hills.co.jp>

※製品のデザイン・仕様などは変更することがあります。

2012.01



# 猫の甲状腺機能亢進症のおはなし



## 猫の甲状腺機能亢進症とは

猫の頸部にある甲状腺は、食事から摂取したヨウ素を利用して、代謝など大切な身体機能を調節する甲状腺ホルモンを産生します。甲状腺機能亢進症は、この甲状腺が肥大し、過剰な甲状腺ホルモンが産生・放出されてしまう病気です。治療しないでおくと心臓や腎臓などに大きなダメージを与え、死に至ることもあります。適切な治療を行うことで良好な管理が可能です。

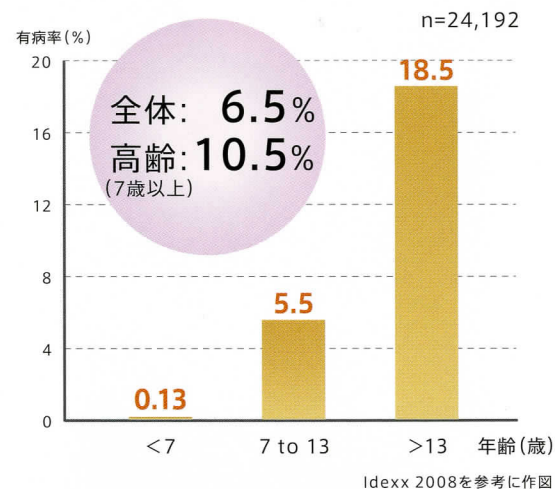


※定期的に獣医師の診察をお受けください。

## 猫の甲状腺機能亢進症の特徴

- 年を重ねるほど、発症頻度が上昇します。
- 罹病期間が長いほど、症状は重症化します。

### 日本における猫の甲状腺機能亢進症有病率



### 甲状腺ホルモンとは？

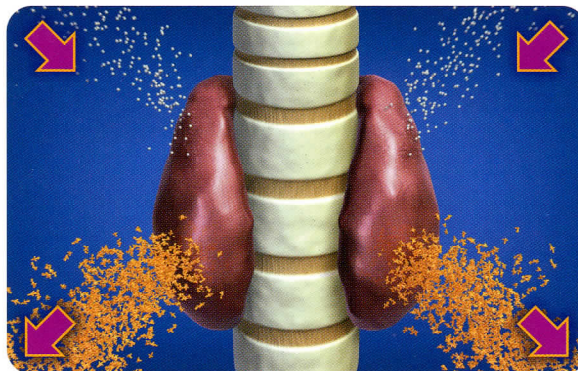
頸部にある甲状腺が産生するホルモンで、代謝、体温、血圧、心拍数、消化器機能など、大切な身体機能を調節します。



## 甲状腺機能亢進症のしくみ

食事から摂取したヨウ素によって作り出される甲状腺ホルモンが、肥大した甲状腺によって過剰に産生・放出されています。

### 通常量のヨウ素を摂取



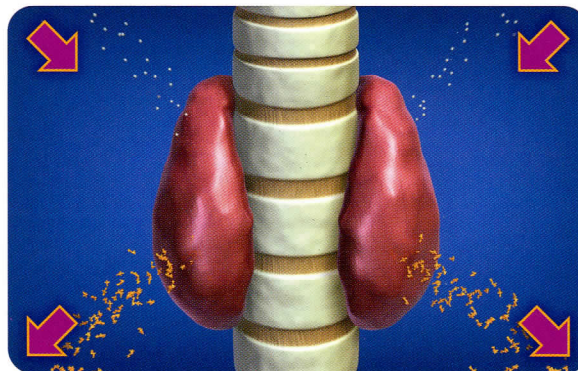
### 甲状腺ホルモンを過剰に産生・放出

### 管理のポイント

- ヨウ素の量が制限されたフードを与えましょう  
日常の食事で摂取するヨウ素の量を制限することにより、甲状腺ホルモンの産生を減少させることができます。

ヨウ素の  
摂取量を  
制限

### 制限された量のヨウ素を摂取



### 甲状腺ホルモンの産生・放出が正常化

## ！ こんな症状が出たら要注意

日ごろからペットの行動をチェックして、以下のような症状がみつかったら、早めに動物病院にご相談ください。

- 食欲旺盛なのに体重が減少
- 下痢や嘔吐
- 水をよく飲む
- 皮膚や被毛の状態が悪い
- 活発である(年齢にあわない活発な動き)

※慢性腎臓病や糖尿病の猫には甲状腺機能亢進症と似た症状がみられる場合があります。正確な診断のため、これらの病気の検査も必要となることがあります。

## 🏠 ホームケア

- 体重を適正に保つようにしましょう
- 定期的に検診を受けるようにしましょう  
(詳細は裏面の「〈猫用〉y/dによる食事管理の方法」に記載)
- 他の猫や人の食事を与えたり、拾い食いなどをさせないように注意しましょう

